

アカシア夜話

アカシアンナイト
第15話

(39回生の被爆)



東京で桜の開花が告げられた麗らかな春の日、都内の某老舗ホテルで、初めて田中清司先輩(39回)にお会いしました。背が高く、85歳という年齢を感じさせない闊達な方でした。病気で床に就いていて、少し足腰が弱くなったと杖をついてはいらっしゃいましたが、お体の方はもうすっかりよろしいようで、今はリハビリに熱心に通われているとのことでした。ロビーで、お知り合いらしい上品なご婦人と挨拶を交わされる姿はスマートで、一体どんな方なのだろうと緊張のインタビューの始まりでした。

最初に田中さんが差し出されたのは、1クラスのはほぼ全員が学徒動員中に被爆死した県立広島第二高等女学校の、生き残った生徒の手記でした。

39回生の被爆

田中：原子爆弾について知らない人が多い。原爆で被爆者がどんなに苦しんでいるかを知ったら、新たに核兵器を作るなんてできるはずがない。こういう手記を英語に訳して世界の人々に読んでもらいたいですね。甲斐：このクラスはほぼ全滅です。附属の中学1年、2年は疎開していたので、被爆死された方は少なかったけれど。田：そう、疎開を行ったということは、本当に附属の先生は賢明だったね。

実は私たち39回生も、先生に助けていただいたのですよ。私たちは当時、南、北、東の3クラスにわかれていました。戦局も悪化し、いつ空襲があるかわからないので、学校を守るため、3クラスが順に宿直に入っていました。昭和20年8月5日は北組、6日は私たち南組が当番でした。

8月5日は、一晩中、警戒警報、空襲警報がなり、雨天練習場で寝ていてもすぐに起こされる。北組は眠ることができませんでした。夜が明けて朝6時、その日の担当の岡本恒治先生が点呼をした時、北組の木村現君が申し出ました。「昨夜は一睡もしていない。非常に疲れているので今日は宿直を切り上げて早く家に帰して欲しい。」当時、与えられた仕事をせずに帰りたいなどあり得ない話でした。しかし、岡本恒治先生はご自身も空襲で寝ておられないから、「よからう、君たちはこれで解散にしよう」とおっしゃり、北組は7時過ぎには家路に向かったのです。

木村現君は 東千田の家について、玄関の戸を開けた途端に爆風が来て、家の中も床が飛ばされ、その床下へ転がり落ちた。そこへ畳が被さり、落ちてきた屋根が被さり、その中で助かった。同じく北組の長沼健君も、古江の自宅に自転車

で着いた丁度その時、爆音を聞いた。広島が大変なことになった、夜警が残っているからと、すぐ千田町に向かいました。途中、一中の生徒が校歌を歌いながら死んでいくのを見たそうです。この長沼健君とか木村現君が生きていたため、広島サッカーは強くなったのです。桜井頼己君や樽谷恵三君とかもいて、広島の、そして日本のサッカーを再建していきました。甲：サッカー班は、戦後、昭和22年西宮の全国中等学校選手権大会で優勝、翌23年の国体でも優勝しましたね。その後日本代表選手にも名を連ねます。学校に残って原爆の犠牲になっていたら、日本のサッカー界は大きく変わっていたでしょう。

田：そう、そして大事なものは、北組を帰して下さった岡本恒治先生は、学校に残っておられたということです。甲：倒壊した建物の下敷きになって、焼死されています。田：その後、附属中学校は、先生のご遺族をととても大切にされ、校門前の崩れなかった武器庫を家族に提供されています。私たち39回生は、その後、校門を通るときは、必ずご家族に向けて一礼をしていました。

宮井：6日の朝、田中さんはどちらにおられたのですか。田：そのころ宿直以外の中学3年生は祇園の三菱工場へ動員されていました。その日、私は可部の山に機械を上げる作業をしていて、山の上からピカッと光ったのを見ました。6日の晩は宿直だったから広島へ向かおうとしましたが、可部街道は負傷者がいっぱい進めず、歩いて吉田へ帰りました。40km以上はあったでしょう。草鞋を履いていたけれど擦り切れて裸足になって歩いていたら、途中で通りすがりの人に「広島はどうだったか」と聞かれました。「光った。もう広島は全滅です。」と言ったら、「これ履いていけ」と言って、自分の履いていた草履を投げてくださいました。

翌7日、吉田の田舎から弁当を持って芸備線で広島へ向かいました。戸坂で降りて歩いて行くと同級生の家がありました。戸坂だから壊れてはいないけれど、食べるものがない。弁当を全部「これ食べて下さい」と置いて附属へ向かいました。火の番をするために学校へ行っただけ、もう校舎も何もなくて。仕方なく、帰ろうとしましたが、同じ道を帰ることが出来ない。甲：来ることができた道を？ 田：来る時は知らずにどんどん来たけれど、帰りはあそこに遺体があったと思うと怖くて帰れませんでした。広島を中心部は、軍隊が掃除したのかと勘違いしたくらい何もなくて。ポツンとあつ



田中 清司氏(39回) 略歴

昭和4年7月20日：広島市生まれ。15年4月：広島高等師範学校附属小学校5年生に編入、後に蹴球班で全国制覇する長沼健氏、木村現氏、樽谷恵三氏、古川浩氏等と同級。16年4月：広島高等師範学校附属中学入学、同時に蹴球班に参加。同年5月若しくは6月：広島一中(現広島県立国泰寺高等学校)と練習試合をして敗戦。以後終戦まで勤労動員等の為、練習、試合共になし。20年8月：原爆の為、母校校舎他全滅。賀茂郡原村(現東広島市八本松町原)の旧陸軍兵舎にて授業再開。22年1月：東千田町に母校復帰。旧文理科大学グランドにて蹴球班の練習を再開。芋畑と化したグランドを整備しながらの練習は困難を極めた。同年12月：全国中等学校蹴球選手権大会で、都立5中、小田原中、甲府中を破り、決勝で尼崎中に7-1で勝利して全国制覇。帰路、サッカーシューズを紛失しサッカーが出来なくなる。23年3月：裸足でも出来るバレーボール班を小川隆司氏(39回)等と共に創部し、県大会で優勝。24年3月：広島高等師範学校附属高等学校(新制)卒業。25年4月：広島県立吉田高等学校に体育教師として赴任(昭和26年3月まで)。26年4月：広島貿易入社。36年4月：広島貿易を改組し広島貿易株式会社取締役就任 現在に至る。30年～39年：全国都市対抗サッカー選手権会開催に際して、東京都のクラブチームTRICKクラブ監督に就任。34年、36年に全国3位。38年4月：東京オリンピック開催に際して、FIFAの役員に選任(39年末ごろまで)。

た路面電車の中で女学生の運転手が死んでいる。吊革にぶら下がってね。あの住友銀行の階段には、亡くなられた方がまだ座ったままでした。

こういう原爆の被害を英語にしてアメリカに送るべきだと思いますね。そう思い、アメリカのお客さんを連れて、一緒に原爆資料館まで行ったことがあるけれど、私は入る事が出来なかった。私には見る事が出来ない。宮：思い出されるのですね。田：原爆の怖さについて言えばもう一つ、母が被爆後、「清司、火傷はうつるか」と言うのですよ。火傷がうつるはずないし、そもそも母は爆心から40kmも離れた所にいたから、火傷するはずないのに。どうも亡くなった方の火葬を手伝ったりしているうちに手が火傷のようになったようです。逃げてきた方の体や服に放射性物質がついていたのでしょう。最期は痛で亡くなりました。放射能というのは恐ろしいものです。

甲：その後はどうされたのですか。田：実は私は海軍兵学校へ入ることになっていた。でも、原爆の混乱で兵学校には行けない。そのうち終戦になってしまいま

した。附属中学は原村で再開したのでそこへ戻りました。近所の西条農学校の校庭でサッカーの練習も再開しました。

戦時下の附属生活

甲：田中さんの附属生活について、もう少し伺いたいのですが。**田**：僕は大手町小学校から附属小へ転入しました。途中から入ってもいじめられたりはしなかったね。で、附属中へ。その頃は配属将校による軍事教練がありました。将校はいばっていたけれど、国立ということで、陸軍大佐も居たから、他の中学のように押さえつけられることはなかったと思いますよ。軍事教練では銃の練習もあって、皆は三八式歩兵銃なんだけれど、僕は体が大きいから、軽機関銃を持たされた。自然にお国の為と思ってやっていたね。

岡田：授業はありましたか。**田**：あるにはありましたよ。特に私にとって大きいのは、あの戦時下にあっても、英語の授業が続けられたことです。英語が続けられたのは全国でも三校しかなかったと言われている。僕はこの附属で習った英語で、戦後諸外国との商売をやってきたし、サッカーの現場でも通訳をやってきた。**宮**：え、通訳が出来る程、英語がお得意になるのですか。**田**：そう。その英語で、海外の方とも交渉して商売を広げることができた。もちろん今も勉強しとるよ。今では挨拶位なら7ヶ国語でできる。**宮**：やはり努力と継続ですね。**岡**：でも、だんだん授業より動員が増えてきたのですよね。**田**：そう、最初はモッコを担いで、ひたすら土運びできつかったね。でも、3年生からは三菱の工場で、機械の構造を詳しく教えてもらい、航空機の部品を作っていた。**岡**：14歳位の少年が作った機械で戦争をしていたということですか。**田**：そう。女子も弾薬を作ったりしていたしね。工場には同じ年頃の工具も居て一緒に働いた。原爆投下の2日前に、その内の一人と殴り合いのケンカをした。彼は原爆で亡くなってしまったよ。

サッカー班での活躍

甲：そして戦後、サッカーを再開したのですね。**田**：練習は厳しかったです。グラウンドは、原爆の熱線でボコボコの砂地

になっていました。その頃は、練習中に水を飲んではいかんと言われていたでしょう。熱中症で倒れるのですが、水をぶっかけられて、気がついたらまた練習する、なんてことをやっていましたね。**甲**：厳しい練習で、優勝を勝ち取ったのですね。**田**：優勝できるなんて思っていなかった。一つずつ勝っていきこうとやっていったら優勝した。もっとも、「広島なら食べ物があるから勝てるだろう」と言われたけどね。



昭和21年8月県大会決勝 左から2番目が田中氏

甲：それだけじゃあ、優勝まで1点しか落とさずに圧勝するなんてことはできませんよ。**田**：サッカーをしていた仲間、皆常に控え目だったけれど、原爆で何もかも失って、一緒に立ち上がらなければという意識は強かったでしょうね。**甲**：同期に日本代表選手で、メキシコオリンピックの監督、元日本サッカー協会最高顧問の長沼健さんがおられますね。**田**：そう、卒業後、長沼健君が推薦してくれて、東京都の監督をさせてもらったことがあります。FIFAの仕事やメキシコオリンピックの仕事もさせてもらった。その時も、附属で勉強した英語が役にたったよ。相手の言葉で話すということが大事ですね。

附属中学校の教育

甲：附属の教育は素晴らしかったのですね。**田**：そしてその素晴らしい先生方が、全く威張ってなくて、生徒を尊重して温かく接してくれました。友達っていうわけじゃないけど、先生と生徒の距離が近かったように思いますよ。時には一緒に麻雀をしたかな。**甲**：僕の時もまだそんな感じだったかなあ。**田**：横手三千雄先生の一家が法事で家を空けられた時、留守番を頼まれたことがある。もっとも、

後で「清司の野郎、米櫃が空になっとなった」と言われてしまったけどね。**宮**：いい関係ですね。



昭和21年県大会決勝 キーパー古川浩氏(40回)

田：僕も1年間、薦められて女子校の体育教師をやったのですよ。**宮**：田中さんは、サッカー以外にも、バレー班を立ち上げて、しかも県大会で優勝されているし、確か5000メートル走の記録もお持ちだったんですよね。スポーツ万能でいらっしゃるから。**田**：いや、そういう訳ではないけど、当時は、戦争で体育を教えることができるような若い男性が居なくなっていたので、丁度いいのが居るということで薦められた。でも、しっかり附属で教わってきたから、実技にしても、生理学にしても先生としてやっていくことができたと思います。休みの日には附属まで出向いて勉強して、また教えるという日々を過ごしましたよ。その時もまた、附属を卒業して本当に良かったと思いましたね。

編集を終えて

田中先輩の笑顔とスケールの大きなお話に引き込まれて、最初の緊張はすぐにほぐれ、あつという間に予定の時刻となり、惜しみつつその場を辞しました。

ご自身の被曝について語られた時は、その記憶にたいへん傷ついておられること、そして核のない平和な世界を強く望んでおられることを感じました。戦争が最後まで人々を傷つけること、人の運命を大きく変えてしまうこと、そして、人々の相互理解と努力で戦争は防げるのだということを教えていただきました。

編集：岡田 美香(76回)

編集：宮井 ふみ子(76回)

文責：甲斐 稔(63回)

～母校定期演奏会のお知らせ～

合唱班 第10回 定期演奏会

日時：2016年7月31日(日) 開場：14:30 開演：15:00

場所：広島大学附属中・高等学校講堂

プログラム 第1部：ルネサンスの“聖”と“俗”

- ・パレストリーナのミサ曲より
- ・マドリガル(ダウランド他)

第2部：“fioretto” ～花にことよせて～

第3部：佐藤 眞 混声合唱のための組曲「蔵王」(OB・生徒合同ステージ)



入場無料！お気軽にお越しください。

管弦楽班 第40回 定期演奏会

日時：2016年8月11日(木祝：山の日)

開場：16:00 開演：16:30

場所：広島国際会議場フェニックスホール(平和公園内)

曲目：チャイコフスキー交響曲第5番、バレエ音楽「ガイーヌ」第1組曲より、「タイタニック」、「アラジン」他

※会場に駐車場はありませんので、付近の一般駐車スペースにお停め頂くか、市内電車などの公共交通機関をご利用下さい。